

報 告

昭和五十八年度大会の概況 日本思想史学会昭和五十八年度大会は、十月二十二日(土)・十月二十三日(日)・十月二十四日(月)の三日間にわたり、東海大学を主会場として開催された。

第一日は、公開講演が行われた。講演者と演題は次の通りである。

『世界の中の日本——日本人は日本を世界の中でどうとらえてきたか』

講演終了後、東海大学同窓会館において懇親会が催された。

第二日は、研究発表と総会が行われた。研究発表は午前と午後、それぞれ二会場に分れて行われたが、発表者は次の諸氏である。

- 1、古代日本人の「恋」意識——万葉集の相聞歌を中心に——
- 2、「日本霊異記」に見る現報の観念
- 3、磐井律令の成立——東アジアの中の日本思想史——
- 4、熊沢蕃山の思想——『女子訓』についての一考察——
- 5、闇斎から仁斎へ——朱子学の展開過程における連続性・非連続性の問題——
- 6、获生徂徠における儒教と兵学の接点
- 7、平安前期から中期への転換について
- 8、発生期東国武士団における人倫意識の形成とその深化
- 9、中世の諏訪信仰について——甲賀三郎譚を中心に——
- 10、徒然草における無常観
- 11、中世土地売券・寄進状における「不孝之仁」について
- 12、帆足万里の歴史観と政治改革論
- 13、永富独嘯庵の医術論
- 14、鶴峯戊申の国学思想
- 15、大國隆正論
- 16、幕末国学者の世界観——竹尾正胤を中心として——
- 17、『自助論』にみる「感化」の思想
- 18、明六社員阪谷素について

総会は、十一時三十分より行われ、事務局より五十七年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて事務局より五十八年度事業計画および予算案が提出され、審議の結果、それぞれ事務局案通り決定された。

第三日は、大山方面への見学旅行が行われた。

同志社大学 教授 笠井 昌昭氏
東海大学 教授 石田 一良氏

筑波大学大学院 伊藤 朗
東海大学大学院 田崎 篤

就実女子大学 神古 彦
筑波大学大学院 李 基

東北大学大学院 前田 勉
同志社大学 小川 繁

芝浦工業大学 広田 光
弘教大学 堀 太

東京理科大学 魚住 孝
愛知学院大学 鈴木 至

東海大学 立花 延
九州大学 佐藤 均

東北大学大学院 桂島 孝
日ノ本学園短期大学 松浦 弘

皇学館大学 岩手 光
岩手大学 高橋 修

清泉女子大学 高橋 昌
清泉女子大学 橋 郎